

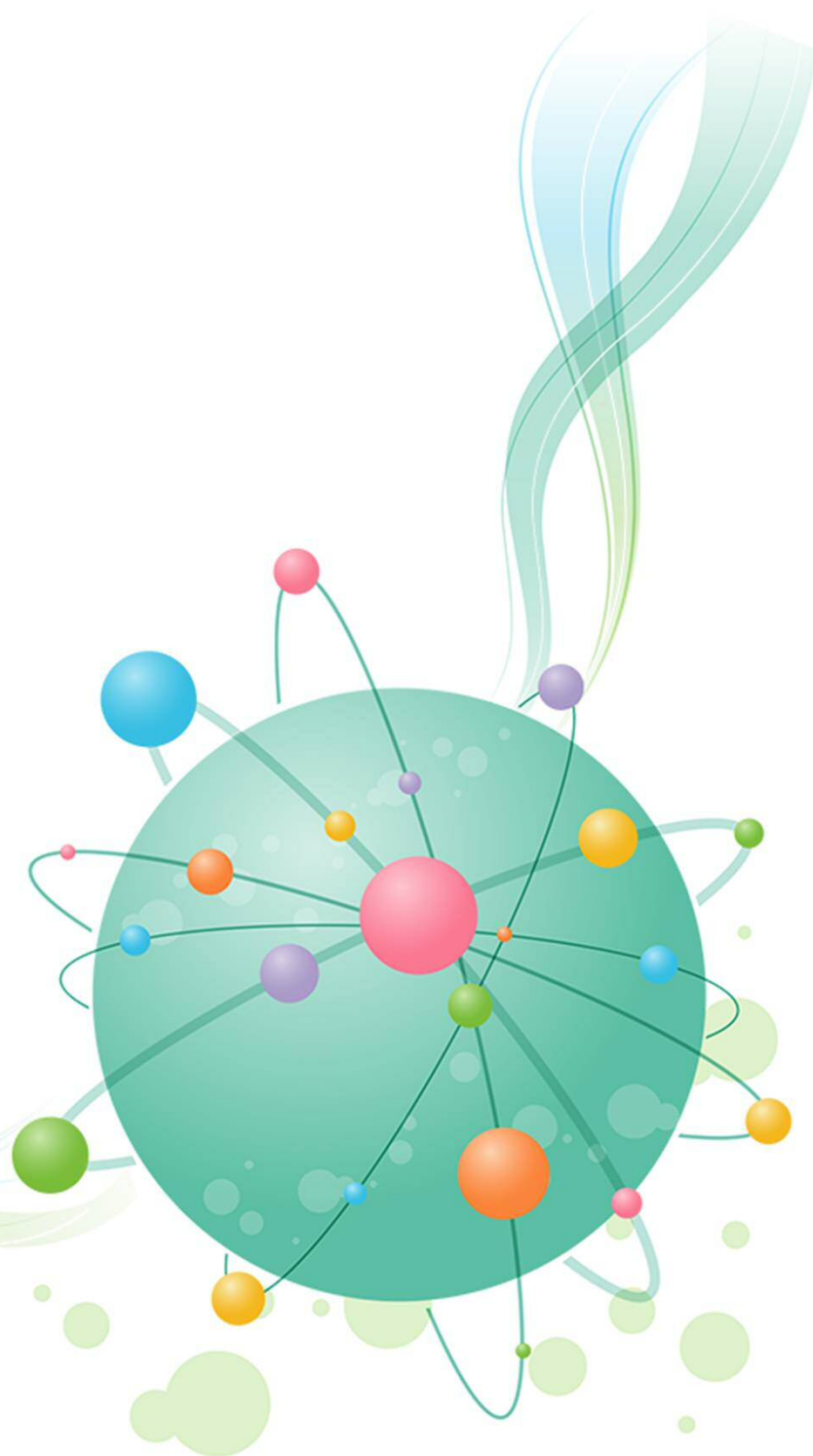


大日本塗料株式会社

2017年3月期決算説明会

2017年5月26日

(証券コード 4611 東証第一部)





Part I . 決算実績・業績予想	P. 2
Part II . 新中期経営計画	P. 18
Appendix . 会社概要及び事業内容	P. 28

Part I . 決算実績・業績予想



1.DNTグループの概況



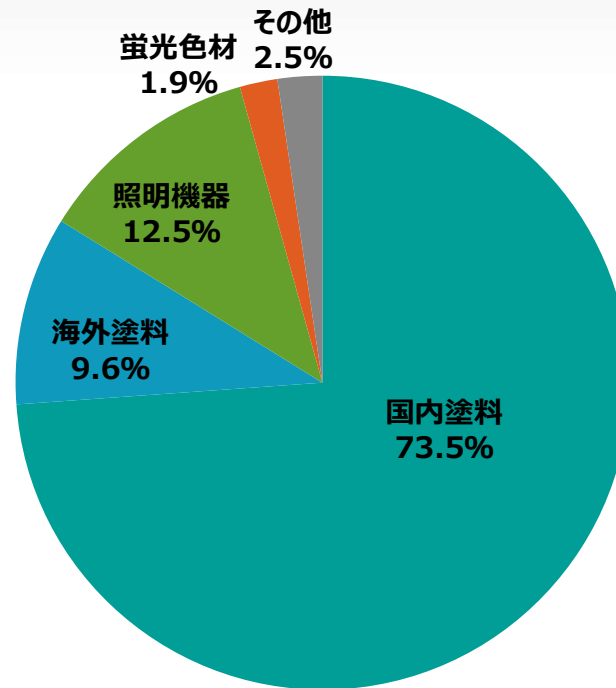
- 国内塗料は重防食塗料（構造物塗料）を中心に、建材、金属焼付（カーテンウォール）に強み
- 海外塗料は海外事業拡大プロジェクトにより積極拡大
- 業務用照明機器、蛍光色材においては国内No.1

海外塗料	
■ 自動車・プラスチック塗料	
■ 金属焼付塗料	
■ 車輻及び産業機械塗料	
■ 構造物塗料	
■ 建築塗料	
■ 建材塗料	

照明機器	
DNライティング(株)／ニッポ電工(株)	
- 主に業務用照明機器	

蛍光色材	
シンロイ化(株)	
- 蛍光塗料・反射塗料	

セグメント売上高の概況
(連結：2017年3月期 72,789百万円)



国内塗料	
■ 構造物塗料	
■ 建築塗料	
■ 建材塗料	
■ 金属焼付塗料	
■ 車輻及び産業機械塗料	
■ 自動車・プラスチック塗料	
■ 自動車補修塗料	
■ ジェットインク等	

その他	
日塗エンジニアリング(株)	
- エンジニアリング	
ニットサービス(株)	
- 物流	

2. 2017年3月期決算実績



① 決算概要総括

売上面

- 国内は市況の低迷、海外は円高の影響により減収

連結売上高 72,789 百万円 前期比 △3,598百万円 △4.7%	国内塗料	53,498 百万円	△2,010百万円 △3.6%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建材分野、建築の塗替分野では堅調を維持 ■ 拡販品目は好調も、全体としての市況は低迷
	海外塗料	7,019 百万円	△447百万円 △6.0%	<ul style="list-style-type: none"> ■ メキシコ及び東南アジアにおいて堅調に推移し、現地通貨ベースでは軒並み増収も、円高による為替換算の影響により減収
	照明機器	9,092 百万円	△602百万円 △6.2%	<ul style="list-style-type: none"> ■ LED関連品の販売拡大も、蛍光灯器具の一部取扱い終了に伴う減収分をカバーするまでには至らず
	蛍光色材	1,377 百万円	△54百万円 △3.8%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鉄道車両向けに新規獲得 ■ 海外における衣料向け需要が落ち込み、減収

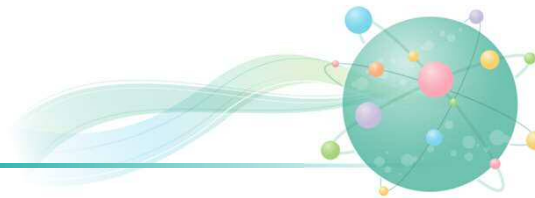
利益面

- 海外塗料事業の高付加価値化が伸展し増益

連結営業利益 6,533 百万円 前期比 +674百万円 +11.5%	国内塗料	3,886 百万円	+101百万円 +2.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高付加価値品の拡販及び原材料価格の下落により増益
	海外塗料	1,186 百万円	+411百万円 +53.1%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 販売数量の増加に加え、自動車部品分野における高付加価値品の拡販が伸展

2. 2017年3月期実績

②損益計算書 (P/L) (連結)

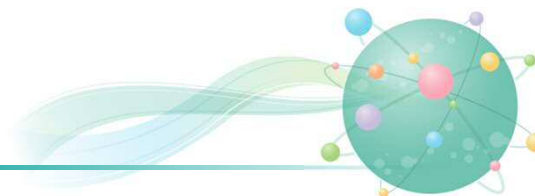


(単位：百万円、%)

	実績						コメント
	2016年3月期		2017年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
					増減額	増減率	
売上高	76,388	100.0	72,789	100.0	△ 3,598	△ 4.7	<ul style="list-style-type: none"> 国内では建材・塗替分野で好調、構造物は低調 海外では円高の影響が大きく減収
売上総利益	21,906	28.7	22,649	31.1	742	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 高付加価値品の拡販 原材料価格の低位安定
販売費及び一般管理費	16,047	21.0	16,115	22.1	67	0.4	
営業利益	5,858	7.7	6,533	9.0	674	11.5	
経常利益	5,559	7.3	6,600	9.1	1,040	18.7	<ul style="list-style-type: none"> 借入金削減による支払利息減77(当期118 前期196) 製品補償引当金繰入額減179(当期16 前期196) 為替差益130(当期 差益21 前期 差損△109)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,614	4.7	5,199	7.1	1,585	43.9	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産売却益1,418(当期1,691 前期273) 事業構造改善費用△64(当期157 前期93)
減価償却費	1,913	—	1,903	—	△ 9	△ 0.5	<ul style="list-style-type: none"> 前期比 △9 内訳(国内) 35 (海外) △23 (照明) △16
設備投資額	1,811	—	1,822	—	11	0.6	<ul style="list-style-type: none"> 前期比 11 内訳(国内) 52 (海外) 22 (照明) △89 (蛍光) 21

2. 2017年3月期実績

③セグメント別売上高・営業利益（連結）

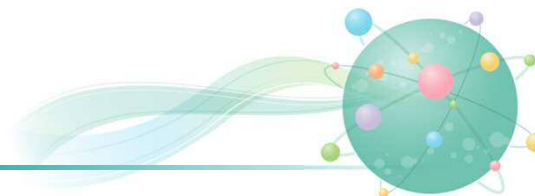


(単位：百万円、%)

	実績						コメント
	2016年3月期		2017年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
売上高	76,388	100.0	72,789	100.0	△ 3,598	△ 4.7	
国内塗料	55,508	72.7	53,498	73.5	△ 2,010	△ 3.6	■ 建材・塗替分野で好調、構造物は低調
海外塗料	7,467	9.8	7,019	9.6	△ 447	△ 6.0	■ 外貨ベースで北中米・東南アジアで増収 ■ 円高により円貨では減収
照明機器	9,694	12.7	9,092	12.5	△ 602	△ 6.2	■ LEDは堅調も、蛍光灯関連の需要減により減収
蛍光色材	1,432	1.9	1,377	1.9	△ 54	△ 3.8	■ 安全対策用塗料、鉄道車輛用カラー帯好調 ■ 海外衣料向け顔料の需要低迷により減収
その他	2,284	2.9	1,801	2.5	△ 483	△ 21.2	
営業利益	5,858	100.0	6,533	100.0	674	11.5	
国内塗料	3,785	64.6	3,886	59.5	101	2.7	■ 高付加価値品拡販と原材料価格下落により増益
海外塗料	775	13.2	1,186	18.2	411	53.1	■ 東南アジア・北中米で自動車部品用塗料の高付加価値品の拡販が伸展
照明機器	688	11.7	931	14.3	243	35.4	■ 販売単価の最適化
蛍光色材	171	2.9	135	2.1	△ 35	△ 20.9	
その他	202	3.6	158	2.4	△ 44	△ 21.8	
調整額	235	4.0	234	3.5	△ 1	△ 0.5	

2. 2017年3月期実績

④ 貸借対照表 (B/S) (連結)



(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	増減額	コメント
流動資産	31,779	32,923	1,143	
現金及び預金	3,125	4,416	1,290	■ 営業活動による増加6,133、借入金の返済による△4,674、設備投資の支払等による△1,325、固定資産売却による収入2,227
受取手形及び売掛金	17,489	17,802	313	■ (国内) 1,053 (海外) △217 (照明) △289 (その他) △80
たな卸資産	9,362	9,009	△ 352	■ (国内) 247 (海外) △153 (照明) △574
その他流動資産	1,801	1,694	△ 107	
固定資産	35,953	37,451	1,498	
有形固定資産	23,629	22,476	△ 1,152	■ 設備投資による増加1,822、減価償却△1,903、売却による減少 △566、為替の影響△135、減損損失△221
無形固定資産	753	849	96	
投資その他の資産	11,570	14,125	2,554	
資産合計	67,732	70,374	2,642	
負債合計	37,112	34,055	△ 3,056	
(借入金残高)	(9,968)	(5,294)	△ 4,674	■ 借入金の返済△4,635、為替による増減△39
純資産合計	30,620	36,319	5,698	■ 親会社株主に帰属する当期純利益5,199に対し、配当金支払△514、自己株式の取得△290、その他包括利益累計額1,060
負債純資産合計	67,732	70,374	2,642	

2. 2017年3月期実績

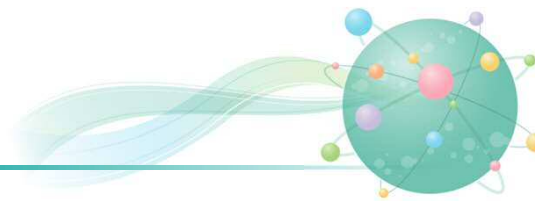
⑤ キャッシュ・フロー計算書（連結）



（単位：百万円）

	2016年3月期	2017年3月期	増減額	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	5,785	6,133	348	■ 各事業セグメントの利益
投資活動による キャッシュ・フロー	△718	637	1,356	■ 有形固定資産の売却増加1,816（当期2,227 前期410）
財務活動による キャッシュ・フロー	△4,317	△ 5,808	△ 1,490	■ 借入金の返済増加△1,461（当期△4,635 前期△3,173）
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△120	△ 81	39	
現金及び現金同等物の 増減額	628	880	252	
現金及び現金同等物の 期首残高	2,444	3,072	628	
現金及び現金同等物の 期末残高	3,072	3,953	880	

3. 2018年3月期業績予想



①業績予想のポイント

売上面

連結売上高
74,000百万円
前期比
+1,210百万円
+1.7%

国内塗料

53,850百万円
+351百万円
+0.7%

- 主力の構造物分野を中心に拡販
- 東京五輪関連の新設、メンテ需要が徐々に顕在化

海外塗料

7,400百万円
+380百万円
+5.4%

- 新規顧客獲得の推進
- メキシコや中国において自動車生産台数が増加見込み

利益面

連結営業利益
6,550百万円
前期比
+16百万円
+0.2%

国内塗料

3,910百万円
+23百万円
+0.6%

- 原材料価格は上昇局面だが、高付加価値品の拡販で吸収

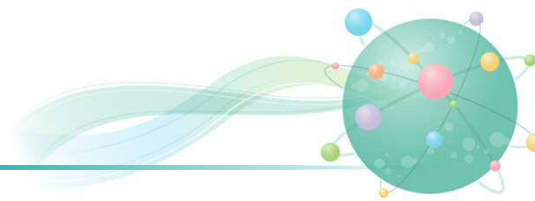
海外塗料

1,200百万円
+13百万円
+1.1%

- 原材料の現地調達割合を高め、収益力向上を図る

3. 2018年3月期業績予想

②損益計算書（P/L）業績予想（連結）



(単位：百万円、%)

	実績		業績予想				コメント
	2017年3月期		2018年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
					増減額	増減率	
売上高	72,789	100.0	74,000	100.0	1,210	1.7	
売上総利益	22,649	31.1	22,576	30.5	△ 73	△ 0.3	■ 原材料価格は上昇も、拡販施策による販売数量増加で総利を確保
販売費及び一般管理費	16,115	22.1	16,026	21.7	△ 89	△ 0.6	
営業利益	6,533	9.0	6,550	8.9	16	0.2	
経常利益	6,600	9.1	6,600	8.9	△0	△0.0	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,199	7.1	4,300	5.8	△ 899	△ 17.3	■ 2017/3期は、生産拠点の統合に関連し、固定資産売却益1,686を特別利益として計上
減価償却費	1,903	—	2,100	—	196	10.3	
設備投資額	1,822	—	2,200	—	377	20.7	■ 生産効率向上を図るため、生産設備の更新を中心に投資

3. 2018年3月期業績予想

③セグメント別売上高・営業利益（連結）



(単位：百万円、%)

	実績		業績予想				コメント
	2017年3月期		2018年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
売上高	72,789	100.0	74,000	100.0	1,210	1.7	
国内塗料	53,498	73.5	53,850	72.8	351	0.7	■ 東京五輪関連のメンテ需要が徐々に顕在化
海外塗料	7,019	9.6	7,400	10.0	380	5.4	■ メキシコ・中国において自動車生産台数が増加見込み
照明機器	9,092	12.5	9,550	12.9	457	5.0	■ 製品ラインナップの充実による販売強化
蛍光色材	1,377	1.9	1,400	1.9	22	1.6	
その他	1,801	2.5	1,800	2.4	△ 1	△ 0.1	
営業利益	6,533	100.0	6,550	100.0	16	0.2	
国内塗料	3,886	59.5	3,910	59.7	23	0.6	■ 足元で原材料価格が上昇傾向
海外塗料	1,186	18.2	1,200	18.3	13	1.1	■ 原材料の現地調達割合を高め、収益力向上を図る
照明機器	931	14.3	880	13.4	△ 51	△ 5.6	■ 高収益品である蛍光ランプ市場の縮小を受け減益見込み
蛍光色材	135	2.1	140	2.1	4	3.1	
その他	158	2.4	150	2.3	△ 8	△ 5.3	
調整額	234	3.5	270	4.2	35	15.2	

3. 2018年3月期業績予想

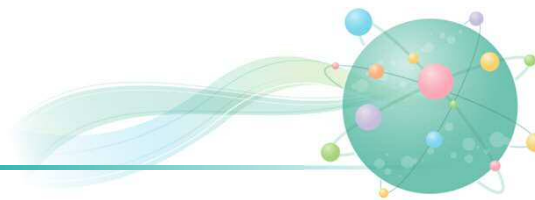
④ 海外地域別売上高



(単位：百万円、%)

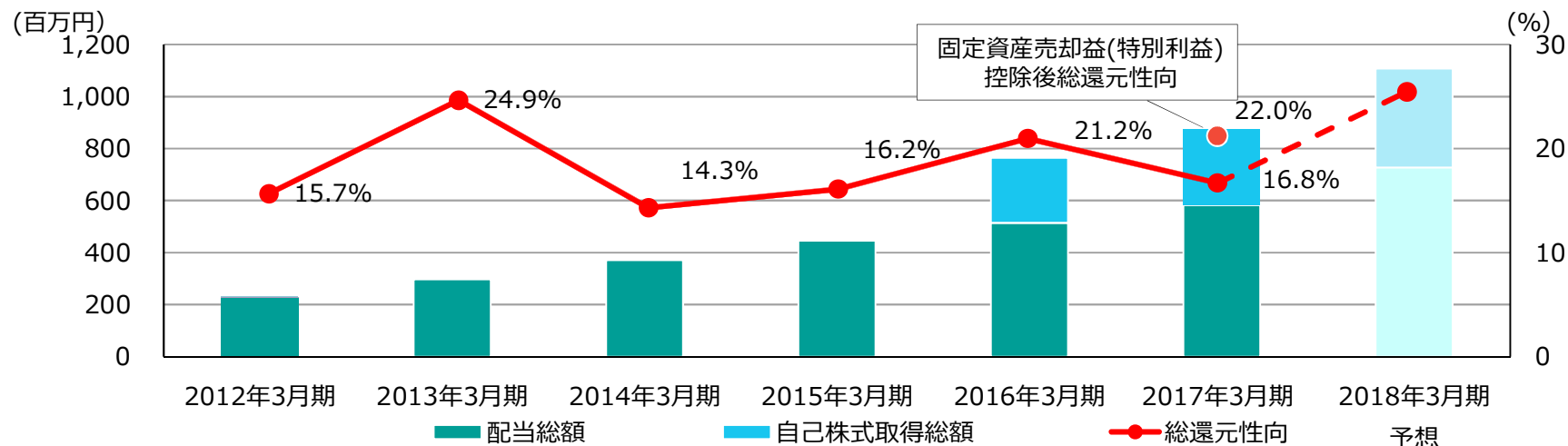
	実績		業績予想				コメント
	2017年3月期		2018年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
海外 計	7,019	100.0	7,400	100.0	380	5.4	
東南アジア	5,046	71.9	5,100	68.9	53	1.1	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品分野で新規開拓を進める 構造物分野の海外展開の拠点化を目指す
中国	1,071	15.3	1,250	16.9	178	16.7	<ul style="list-style-type: none"> 活動地域を拡張し、新規顧客の獲得を図る
その他	902	12.8	1,050	14.2	147	16.3	<ul style="list-style-type: none"> 合併会社を通じた連携を強化し、売上拡大へ

4. 株主還元



総還元性向推移

- 業績に連動した継続的な増配を着実に実施。2017年3月期は0.5円増配の4.0円配当を実施予定。2017年3月期は1.5百万株を290百万円で取得。2017年5月12日の取締役会において、1.5百万株、380百万円を上限とした自己株式取得を決議



株主優待

- 2015年5月13日開催の取締役会において、株主優待制度の導入を決定
- 2017年も下記内容にて実施予定

保有株式数	優待内容
1,000株以上 10,000株未満	当社オリジナルQUOカード 1,000円分
10,000株以上	当社オリジナルQUOカード 3,000円分

単元株式数の変更及び株式の併合について

- 2017年5月12日開催の取締役会において、単元株式数の変更及び定款一部変更について決議するとともに、6月29日の定時株主総会に、株式併合に関する議案を付議

1. 単元株式数の変更

- 単元株式数を1,000株から100株に変更

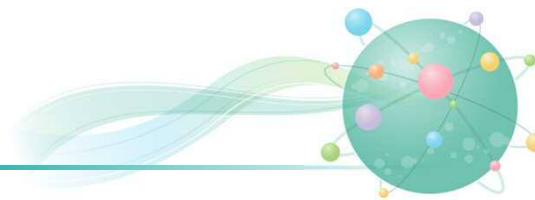
2. 株式併合

- 単元株式数の変更後においても証券取引所が望ましいとする投資単位の水準(5万円以上50万円未満)とすることを目的として、当社株式について5株を1株とする株式併合を行う

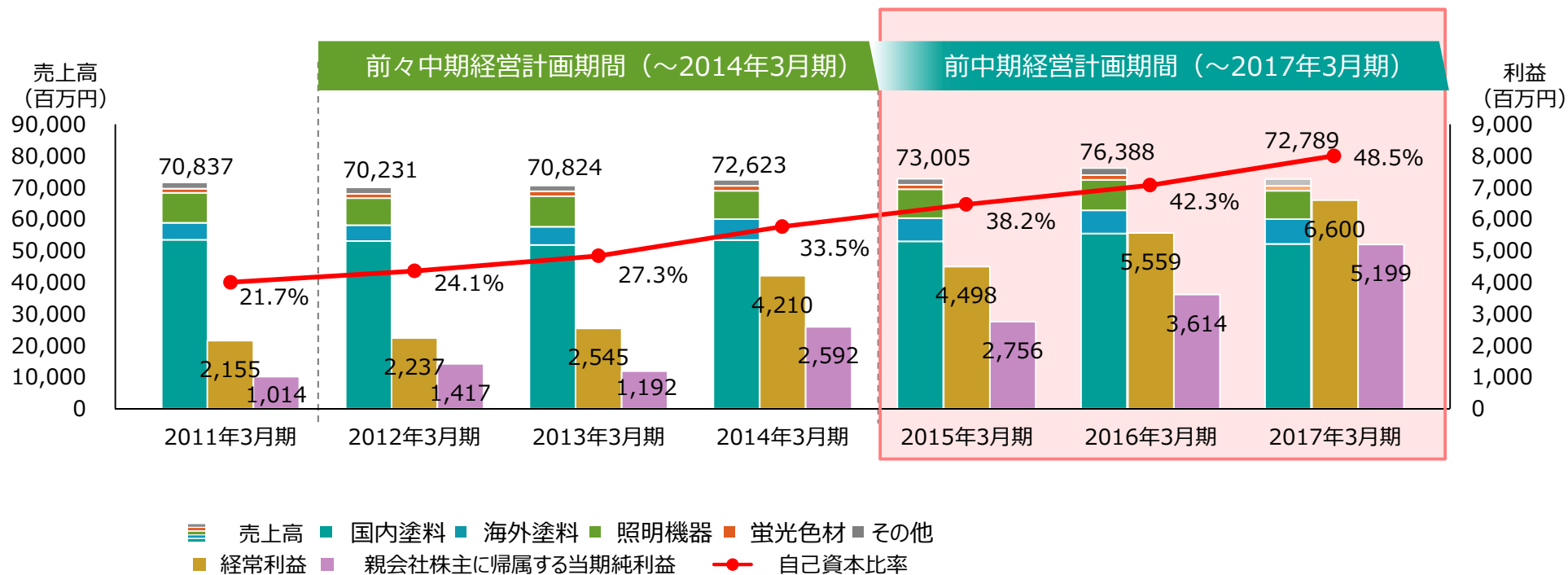
3. 効力発生日

- 2017年10月1日(予定)

5. 前中期経営計画の振り返り



① 売上高・利益推移



総括

- ・ 売上伸び悩むも、高付加価値品へのシフトと原材料価格低下により収益目標は超過達成
- ・ 財務面でも銀行借入が大幅に減少し、自己資本比率も大幅向上
- ・ 投融資余力が蓄積され、新たな攻めのステージへ

収益面

経常利益 42億円→66億円 (+24億円)
 経常利益率 5.8%→9.1% (+3.3ポイント)

財務面

借入金圧縮 153億円→53億円 (△100億円)
 自己資本比率向上 33.5%→48.5% (+15.0ポイント)

5. 前中期経営計画の振り返り



② 経営目標と実績

- 中期経営計画の当初計画を利益面で超過達成

支柱施策

① 国内塗料事業の高付加価値化

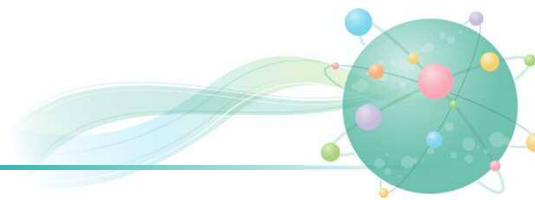
② 海外塗料事業の積極拡大

③ 新たな収益源事業の育成・強化

	2014年3月期実績	2017年3月期	
		当初計画	実績 (2014年3月期比)
連結業績	売上高	72,623百万円	80,000百万円 72,789百万円 (+166百万円、0.2%)
	営業利益	4,274百万円	5,913百万円 6,533百万円 (+2,259百万円、52.9%)
	経常利益	4,210百万円	6,000百万円 6,600百万円 (+2,390百万円、56.8%)
	経常利益率	5.8%	7.5% 9.1% (+3.3ポイント)

5. 前中期経営計画の振り返り

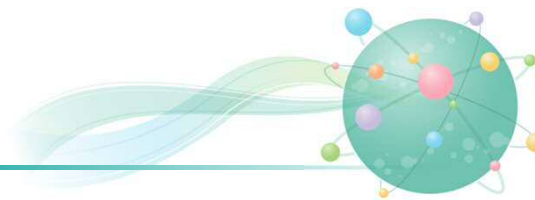
③セグメント別の状況



- 国内では、構造物分野の需要の伸び悩み、汎用品価格低下から業界全体の塗料出荷金額が弱含む中、高付加価値品の拡販により高収益体質への転換が進展
- 海外では、自動車部品分野における高付加価値品の拡販の伸展、原材料の現地調達率アップで大幅に高収益化
- 照明では、従来の蛍光灯関連器具からLED関連器具へと売上構成が転換。構造改革の実施で収益力向上

		2014年3月期実績	2017年3月期実績	2014年3月期比 増減
国内塗料	売上高	53,441百万円	53,498百万円	56百万円
	営業利益	2,530百万円	3,886百万円	1,356百万円
海外塗料	売上高	6,751百万円	7,019百万円	268百万円
	営業利益	501百万円	1,186百万円	685百万円
照明機器	売上高	8,998百万円	9,092百万円	93百万円
	営業利益	740百万円	931百万円	191百万円

5. 前中期経営計画の振り返り



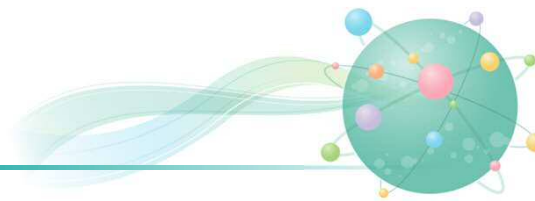
④ 各施策における成果

支柱施策	重点施策	主な成果
① 国内塗料事業の高付加価値化	高付加価値品への進展、製品ポートフォリオの転換	<ul style="list-style-type: none">■ 高付加価値品の拡販推進（低採算品からの代替推進）■ 低採算品の生産・販売見直し
	粉体合併による新展開	<ul style="list-style-type: none">■ 粉体塗料製造会社を合併にて設立（出資51%）■ 原材料や製造のコストシナジー効果の導出
	インフラ補修事業注力	<ul style="list-style-type: none">■ 東京五輪の関連施設需要や都市部のインフラ整備需要の獲得に向け、グループ一体となったプロジェクト体制でアプローチ
	リフォーム事業拡大PJ	<ul style="list-style-type: none">■ 当社の建材塗料で施工された物件の塗替工事と塗料需要の取込み
② 海外塗料事業の積極拡大	メキシコ合併事業展開	<ul style="list-style-type: none">■ 関西ペイント(株)との合併会社を通じ、自動車部品用塗料の販売拡大に注力
	海外事業拡大PJ	<ul style="list-style-type: none">■ 国内取引先からの案件情報をもとに海外での事業開拓を推進■ 東南アジアでの大型案件（インフラ関連）の獲得
③ 新たな収益源事業の育成・強化	照明機器事業の生産体制再構築	<ul style="list-style-type: none">■ DNT本体における構造改革のノウハウを生かした生産体制を再構築、大幅な効率化を実施
	ジェットインクの展開	<ul style="list-style-type: none">■ IJフロンティアPJを発足させ、産業用IJインク需要の掘り起こしが伸展

Part II. 新中期經營計畫



1. 事業環境認識



国内塗料

■ 国内インフラ需要の動向

- 東京五輪需要は、五輪プロジェクトの見直し等の影響を受け、当初見通しから後ろ倒しとなる2017年度後半から本格化すると予測
- 競技施設の新設・改修に加え、再開発事業や道路交通網整備への需要拡大、ピークは2019年度
- 東京五輪後の国内インフラ塗料市場は趨勢的に漸減傾向にあり、維持・改修市場への移行が進む

■ 安全対策課題対応

- 2014～2015年に相次いで発生した首都高塗替工事中に発生した火災の影響による計画遅延により塗替需要は低迷
- 安全対策としての水性塗料への移行がさらに進行
 - 水性塗料が首都高塗替を中心に試験施工
 - 日本塗料工業会が2016年7月に水性重防食塗料の国内初規格化

■ 建材分野

- 国内の新設住宅着工戸数は漸減傾向
- 一方、リフォーム市場は堅調であり、リフォームに伴う建材塗料の塗替需要も堅調に推移

海外塗料

■ 新興国における自動車需要の拡大

- タイにおける自動車生産台数が一時期の落ち込みから回復基調であり、メキシコやインドネシアにおいても堅調に推移し、新興国の自動車需要は拡大していくと予測

■ 新興国インフラ需要・建設需要の拡大

- 東南アジアの生活水準の向上を背景に、政府によるインフラ開発の進展及び住宅設備をはじめとする建設需要が拡大

照明機器

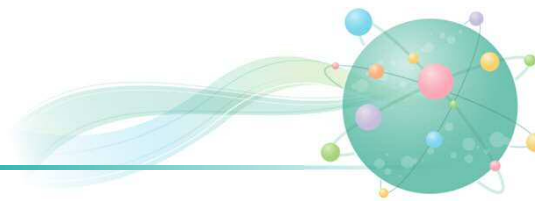
■ 蛍光灯市場の急速な縮小

- 2015年11月に政府により照明機器の省エネを進める方針が示達

■ LED市場の拡大

- 上記に伴い、蛍光灯からLEDへの転換が一層進展し、LED関連器具の裾野拡大

2. 経営理念とコンセプト



経営理念

当社は、新しい価値の創造を通じて地球環境や資源を護り、
広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献できる企業を目指します

大日本塗料の ポジショニング

ロケーション

- 国内：当社グループのメインマーケットとして重点事業分野に特化
- 海外：特定国の経営環境に対応した事業構造・商品に選択と集中

事業領域

- 構造物、建築物、建材を中心に高付加価値品に重点
- インクジェット・照明機器・蛍光塗料など他社にない独自分野

経営課題

- 東京五輪以降に顕在化する社会構造・経済構造の変化への対応
- 構造変化の中でも持続的成長力を持つ企業たるべく、新たな価値創造の枠組み・需要創造の枠組みを確立

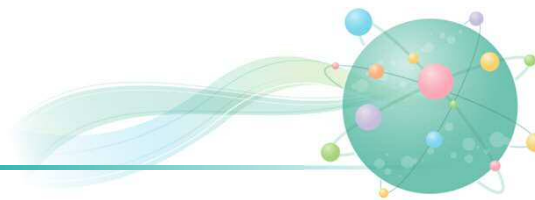
より一層の高付加価値化

「グッドカンパニー」となる事業展開推進

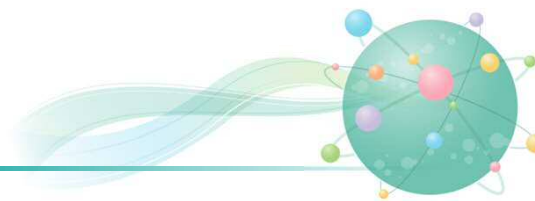
新中期経営計画コンセプト

持続的成長に向けて、新たな高付加価値化に挑む

3. 新中期経営計画骨子



4. 連結業績目標



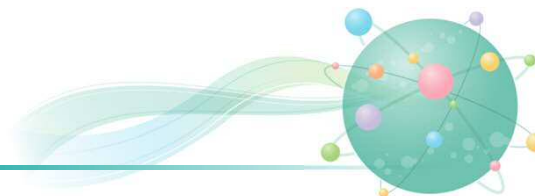
- 2020年3月期目標を、売上800億円、営業利益80億円、営業利益率10%とする

(単位：百万円、%)

	2017年3月期 実績
売上高	72,789
国内塗料	53,498
海外塗料	7,019
照明機器	9,092
蛍光色材	1,377
その他	1,801
営業利益	6,533
国内塗料	3,886
海外塗料	1,186
照明機器	931
蛍光色材	135
その他	158
調整額	234
営業利益率	9.0%

2020年3月期 目標	2017年3月期比	
	増減額	増減率
80,000	7,210	9.9
58,100	4,601	8.6
8,800	1,780	25.4
9,900	807	8.9
1,400	22	1.6
1,800	△ 1	△ 0.1
8,000	1,466	22.4
4,910	1,023	26.3
1,580	393	33.2
950	18	2.0
140	4	3.1
150	△ 8	△ 5.3
270	35	15.2
10.0%	1.0%	11.1

5. 資本政策



- 財務体質改善を完了し、収益力アップで増加するフリーキャッシュフローを成長に向けた投資に積極的に活用
- 設備投資に加え、M&A戦略も推進し、さらなる高付加価値化に向けたビジネスモデルを構築
- 株主還元は総還元性向25%を目途に確保

営業キャッシュフロー3年累計目標：210億円

①設備投資

【付加価値創出、効率化の追求】

- ✓ 生産工場等へのテコ入れ
 - 中国新工場設立（予定）：
全種生産可能、生産能力倍増
 - 小牧、那須工場再構築：
少量多品種生産対応
 - 物流センター改築
危険物保管、物流ニーズ対応
- ✓ R&D投資
 - 那須防食センター設立：
構造物の研究拠点
 - 新素材センター設立：
新素材、テストプラント対応

②株主還元

【総還元性向25%を志向】

- ✓ 配当を中心に自己株式取得と合わせ、
総還元性向を25%程度とする

③M&A戦略

【海外を中心とした戦略的M&Aの推進】

- ✓ 最大100億円程度のM&A投資規模
- ✓ 国際本部を中心とした社内体制確立
 - 市場、他社動向に関するフィージビリティ
スタディを開始
 - M&A戦略チーム組成

6. 施策概要

① インフラ需要の確実な取り込み

- 東京五輪開催に伴う首都圏の開発需要やインフラメンテナンス需要を、環境対応形製品等の付加価値の高い製品で取り込む

インフラコーティングPJ

- 東京五輪開催に伴い期待される首都圏の開発需要に対し、付加価値の高い金属建材（カーテンウォール）等の拡販によりボリュームを確保



武蔵野の森総合スポーツ施設「メインアリーナ」
耐候性に優れた「パウダーフロンCW」が採用

橋梁・コンクリートシェアアップ活動

- インフラメンテナンス市場をターゲットに対策チームを発足、物件ごとの要因対応によるシェアアップを狙う

冬季条件下でも塗装可能
とした水性塗料技術



水性の不燃性塗料による
トンネル内コンクリート片
はく落防止技術

景観に調和したカラー
シミュレーションと色彩提案





6. 施策概要

②強みを生かした市場開拓

- 構造物を中心としたインフラ更新需要取り込みへのビジネスモデル構築、建材とスペシャリティを中心としたジェットインク拡販など、DNTの強みを活かした市場開拓に注力

強みの事業分野

重防食塗料
(構造物、建築物)



リフォーム



建材塗料



インクジェット



構造物橋梁・プラント新市場開拓

- 耐候性鋼橋梁のメンテ市場に対し、簡易工法（簡易的な素地調整+サビシャット+塗装）の確立により需要開拓



建材マーケットの高付加価値化

- 建材市場において、金属サイディングへの展開を含めたインクジェット事業の拡大



加飾フィルム
置換え



シルク、グラビア
印刷代替



インクジェット
による新意匠

リフォーム事業拡大

- ハウスメーカーとの提携を横展開することによるリフォーム事業の拡大
- 2017/3期実績に対して、最大25億円の売上増加を見込む



インクジェット事業の拡大

- 少量多品種・大量生産が求められる市場に対して、デジタルオンデマンド生産が可能なインクジェットプリントのメリットを訴求し、産業用IJインクの市場開拓を推進する
- すでにIJインクが導入されている市場に対しては、シェア拡大や横展開により拡販する



6. 施策概要

③ 国内塗料事業の更なる強化

- 数量が落ち込んだ中採算帯の商品群は、ユーザーに対しての巻き返し活動及び新規市場開拓を通じて数量挽回を図る
- 粉体塗料はコスト効率改善による競争力強化を梃に、拡販を推進

中採算品商品群の選別・強化

前中計期間成果	課題	中採算品の選別・強化
<ul style="list-style-type: none"> ① 高付加価値品の拡販・推進 ② 低採算品の生産・販売見直し ③ 低・中採算品から高付加価値品への代替化推進を確立 <ul style="list-style-type: none"> ■ 建材を中心に高付加価値品が大きく伸長、低採算品が減少し増益 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業分野によっては中採算品の拡販が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高採算シフトの過程で手薄となった、中採算品を選別・強化 ■ シェアアップを図り、売上・利益の伸長を図る

粉体塗料事業の強化

前中計期間成果	課題	ジャパンパウダー塗料製造(株)のテコ入れ
<p>ジャパンパウダー塗料製造(株)設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 関西ペイント(株)連結子会社の久保孝ペイント(株)と国内における粉体塗料の製造事業の合併会社を設立 ■ 原材料や製造のコストシナジー効果の導出 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 販売数量が計画どおり増加せず、シナジー効果顕在化が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ■ コスト競争力強化 生産シナジー/コストダウン追及 (生産拠点の有効活用・生産方法の見直し) ■ 粉体塗料市場における競争力強化によるシェア拡大



【粉体塗料静電塗装】



6. 施策概要

④ 海外事業の積極拡大

- タイ・メキシコ・中国を中心に規模拡大を図る。財務内容改善により拡大した投融資余力をもとに、積極的な設備投資やM&Aも視野に入れる

海外事業拡大PJ

中国



- 新工場を検討、生産能力の増強と環境規制への適応を図る
- 中国国内における活動地域を拡張

タイ



- メイン市場である自動車部品分野では、既存顧客のシェアアップと新規顧客の獲得を推進
- 構造物分野における海外展開の基盤を確立
- 基幹システム更新等の設備投資により、管理体制合理化・品質の改善を図る

メキシコ



- 合併会社の利点を生かし、北米全域への販路を拡大



M&A

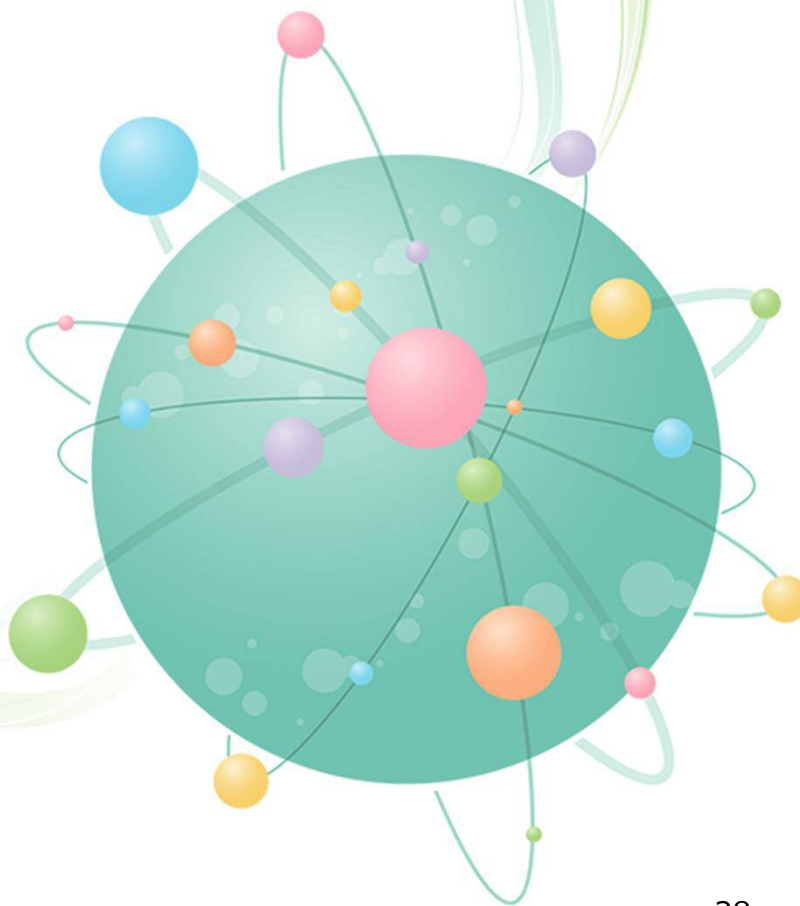
M&A戦略の推進

成長市場をターゲットとして最大100億円程度の戦略的M&A投資を検討

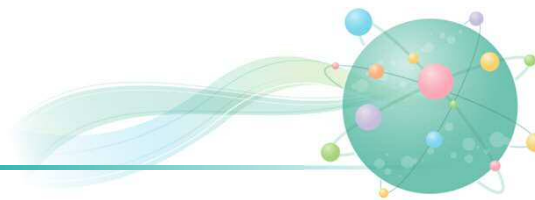
M&A戦略チームを組成し
フィージビリティスタディを開始

Appendix.

会社概要及び事業内容

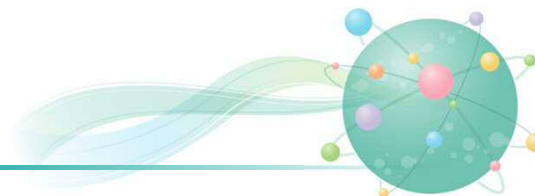


1. 会社概要

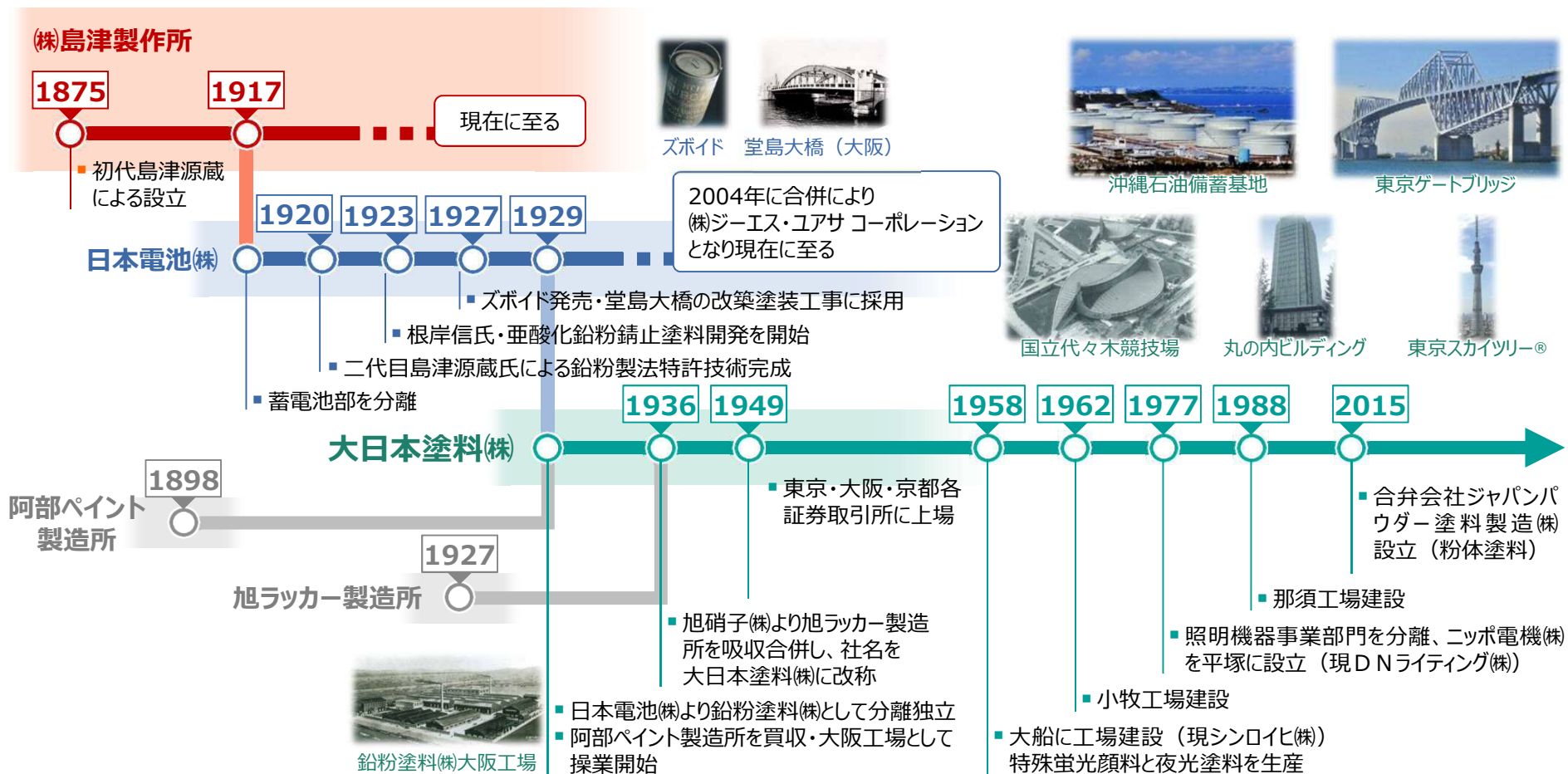


会社名	大日本塗料株式会社	Dai Nippon Toryo Company, Limited
本社	大阪市此花区西九条六丁目1番124号	
設立	1929年7月25日	
事業内容	塗料・ジェットインクの製造、販売	
代表者	取締役社長 岩浅 壽二郎	
売上高	72,789百万円	(連結/2017年3月期)
経常利益	6,600百万円	(連結/2017年3月期)
親会社株主に帰属する当期純利益	5,199百万円	(連結/2017年3月期)
資本金	8,827百万円	(連結/2017年3月期末)
従業員数	2,183名	(連結/2017年3月期末)
証券コード	4611 東証第一部	

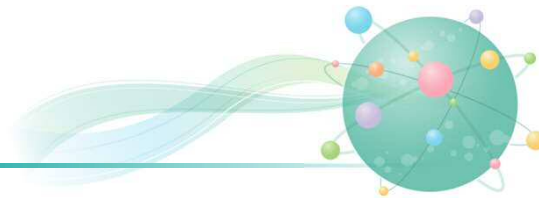
2. 沿革



- (株)島津製作所から発祥の日本電池(株) (現(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション) において開発された亜酸化鉛粉錆止塗料を基に、1929年日本電池(株)より分離、独立
- 創業製品「ズボイド」に始まり建築物・構造物の重防食塗料を中心に、日本の塗料技術をリード

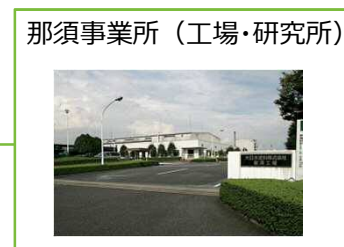


3. 国内拠点



■ 国内23拠点（本社・事業所4拠点、営業所19拠点）、連結子会社15社

- 本社
- 事業所（工場・研究所）
- 営業所
- 連結子会社



- サンデーペイント(株)
- 岡山化工(株)
- DNT山陽ケミカル(株)
- ビーオーケミカル(株)



4. 海外拠点

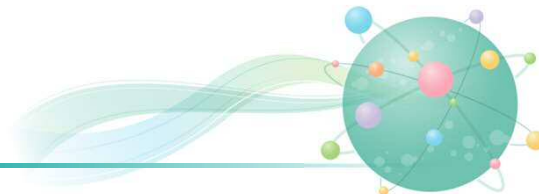


■ 海外9拠点 (海外工場 5拠点)

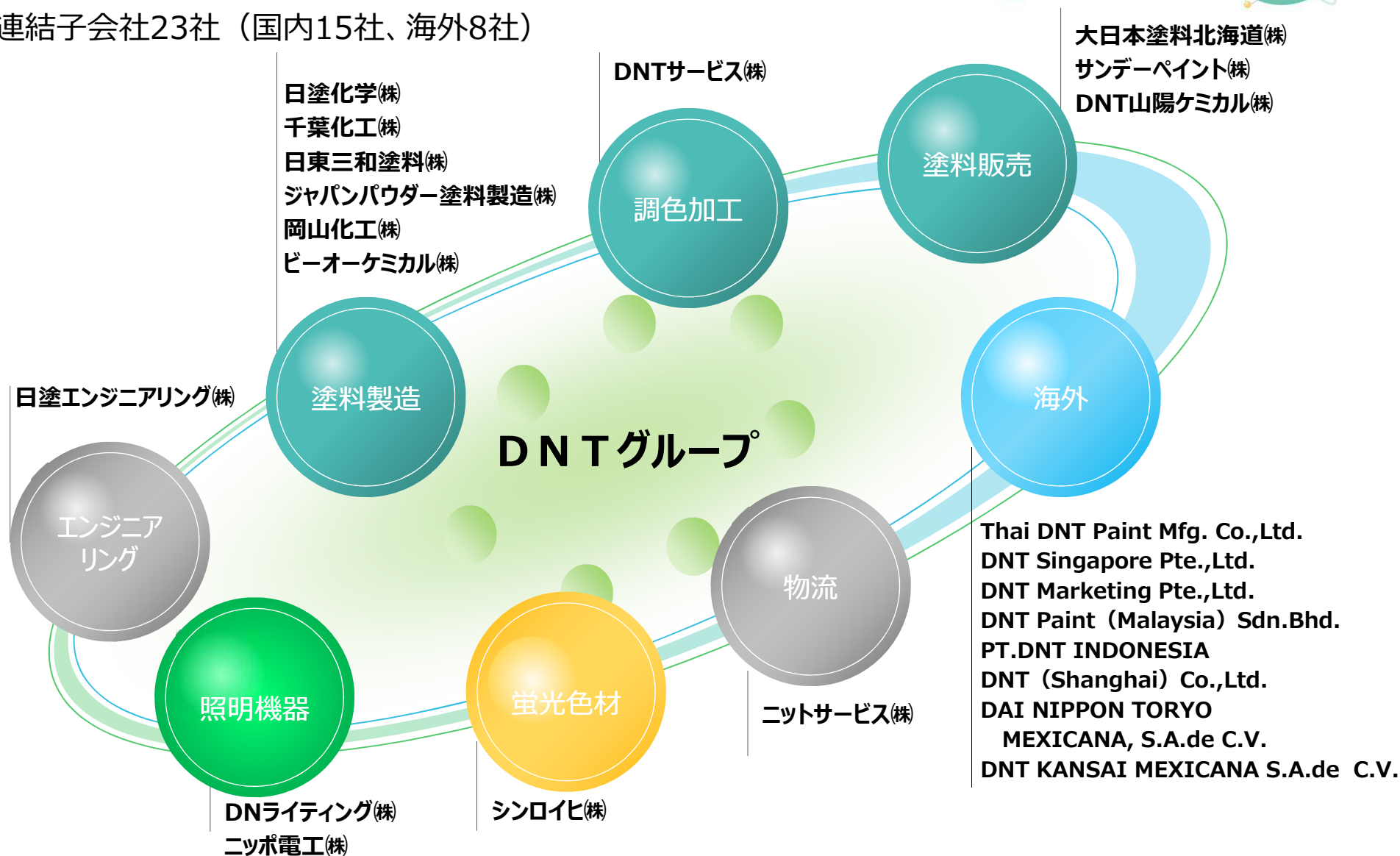
- 連結子会社
- 持分法適用会社
- 業務提携
- 技術提携
- 工場



5. DNTグループ概要



■ 連結子会社23社（国内15社、海外8社）



6.事業内容



①国内塗料事業（1）商品力と顧客基盤

- 下塗りから上塗りまでを当社塗料で完結できるトータルシステムの提供で最適な塗装仕様を実現
- 新築時から塗替（メンテナンス）時まで塗装物のライフサイクルをカバーするビジネスモデルにより確立した強固な顧客基盤

技術力に裏打ちされた商品力

下塗りから上塗りまでを当社塗料で完結可能なシステムを提供

構造物

超耐久性塗装システム：
VフロンHBシリーズ
DNT水性重防食システム

建材

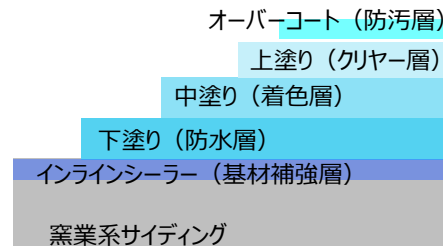
インラインシーラーから
オーバーコートまで
当社仕様による

- 高い品質水準維持のために下塗りから上塗りまで、最適な塗装仕様を提供

「塗装システム」として提案・提供

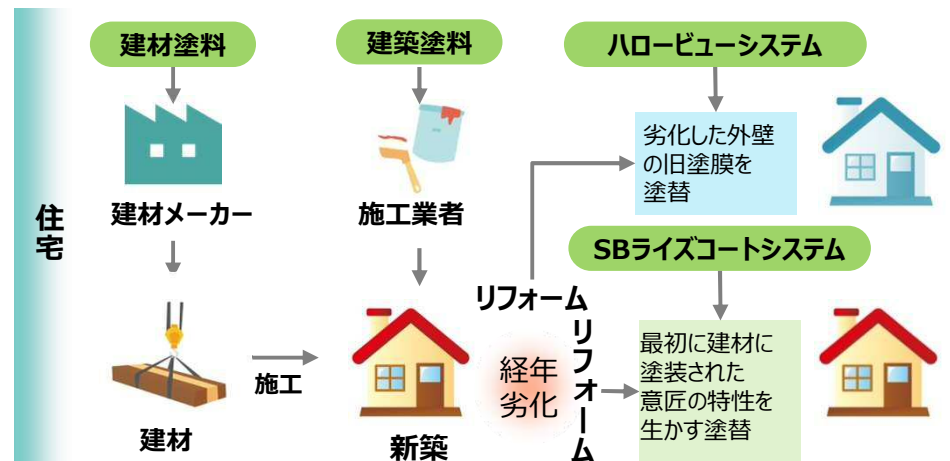
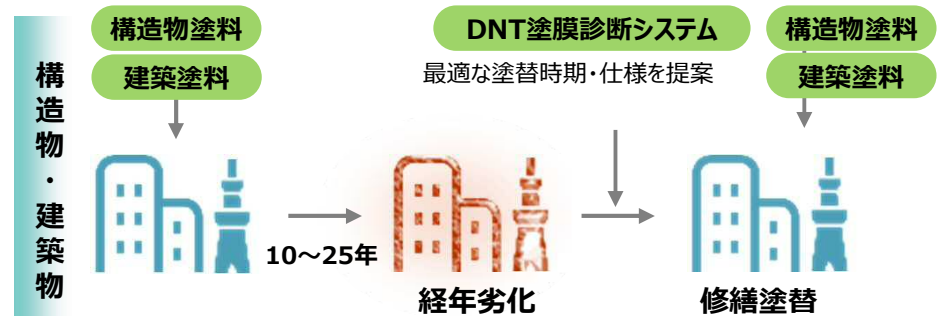


シーラーからオーバーコートまで取扱い



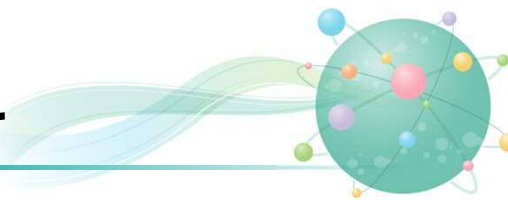
新築から塗替まで一貫したビジネスモデル

多様なサービス・品揃えにより塗装物のライフサイクルをカバー

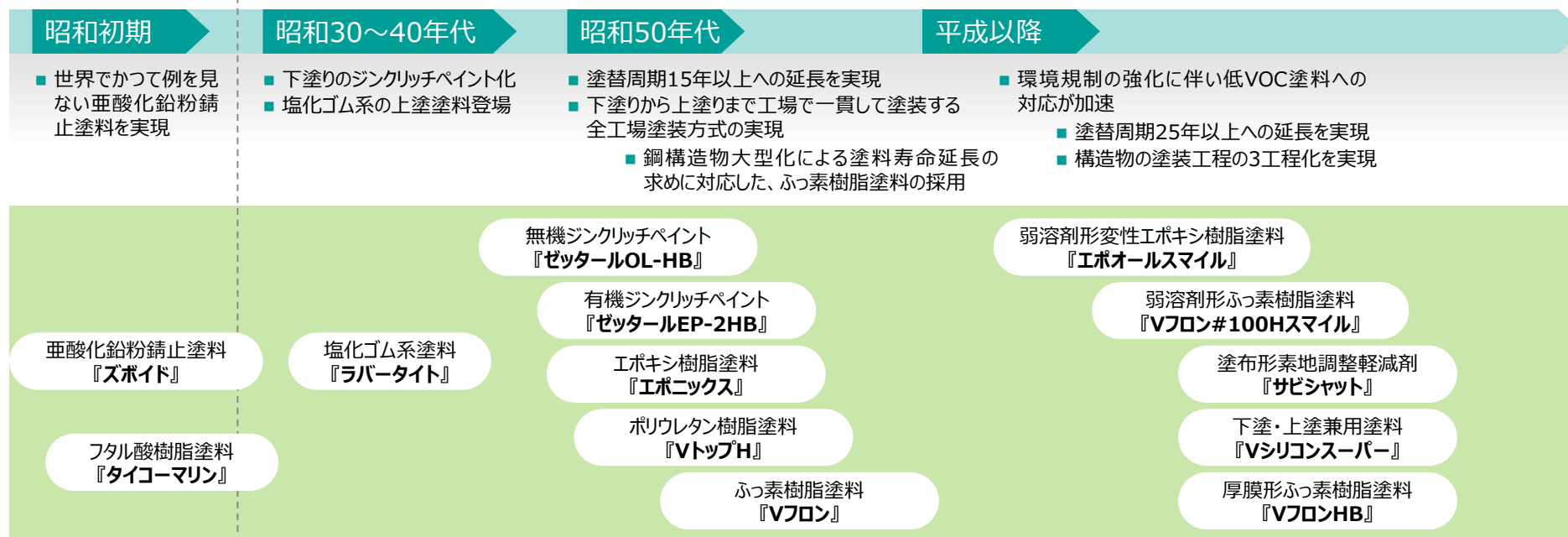


6.事業内容

①国内塗料事業 (2) コア技術としての重防食塗料



- 当社創業以来のコア技術、製品力と技術力に裏打ちされた長年に亘る実績
- 環境に配慮し、塗装工程の短縮、塗替周期の長期化を実現する防食技術



堂島大橋 (大阪)



若戸大橋 (北九州)



本四連絡橋 (瀬戸大橋)



かつしかハーフ橋 (東京)



明石海峡大橋 (兵庫)



東京ゲートブリッジ



沖縄石油備蓄基地



女神大橋 (長崎)



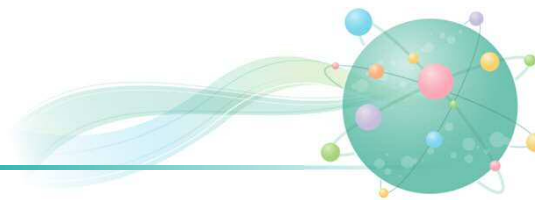
東京スカイツリー®



里美大橋 (茨城)

6.事業内容

①国内塗料事業 (3) 建材塗料でトップシェア



- 重防食塗料と並んだコアビジネス、窯業建材用塗料では国内トップシェア（40%）
- 機能性塗料、高耐久性塗料などラインアップも多岐に亘る
- ジェットインクとの組み合わせによる高意匠化技術の展開を図る

建材塗料における取組み

建材塗料の差別化要件

高耐久性

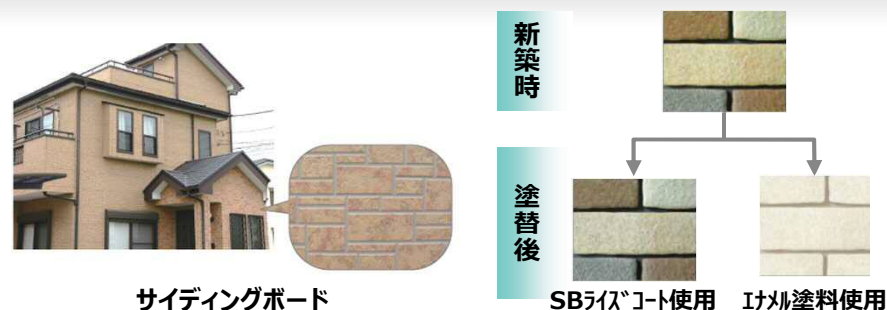
機能性

高意匠性

1987年9月	K（建材）プロジェクト発足
1993年5月	千葉化工(株)稼働開始 - 建材向け水性塗料の需要増加対応 - 需要地近くの生産拠点

- 建材のライフサイクルにおいて、新築からリフォームまでカバーするビジネスモデルを確立
- プレハブ化時代にプロジェクトを立ち上げ、住宅建設が最も伸長している時代にNo.1シェアを実現
- 鋼板から始まり、窯業系建材として外壁材用の建材塗料も開発

SBライズコートシステム



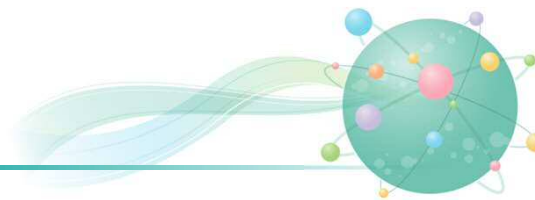
- 新築時の建材に塗装された塗料がリフォーム段階に入った時に、高意匠性のある現行意匠（レンガ調など）を生かし、劣化した塗膜の上に「クリアー塗料」を塗布

最近の開発技術

高耐久性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 長期塗膜保証（15年、20年）を可能とする有機無機複合樹脂 ■ ふっ素樹脂クリアーの展開
機能性	<ul style="list-style-type: none"> ■ セルフクリーニング機能による防汚機能を実現するため、オーバーコート剤、一液親水クリアーを開発
高意匠性	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェットインクによる高意匠仕様を確立

6.事業内容

②海外塗料事業



- 2012年以降、海外での日系企業需要に対応し、海外事業拡大プロジェクトを展開
- 工業用塗料で土台を構築し、得意分野である重防食塗料の海外市場向け製品化を推進

中国 2002年設立

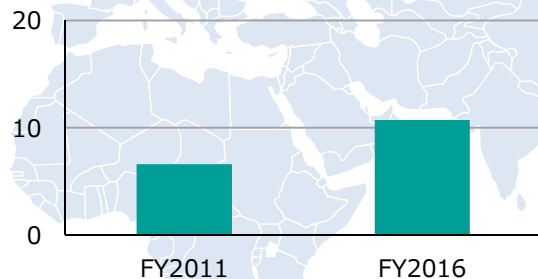


主要生産品 重防食用、工業用、自動車部品用、プラスチック用、建築用

- 品種バランス充実、幅広い分野へ対応
- 自動車部品用塗料中心に工業用事業展開
- 重防食塗料は、日系プロジェクトを中心に展開

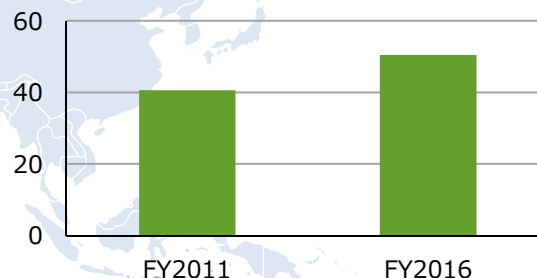
売上
(億円)

中国



売上
(億円)

東南アジア



メキシコ 2003年設立

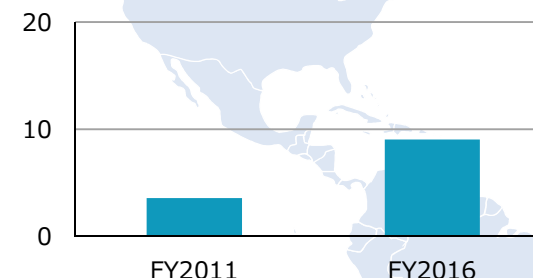


主要生産品 自動車部品用、プラスチック用

- 2013年関西ペイント(株)との合併販売会社を設立
- 日系自動車メーカーの進出に伴い、自動車部品・プラスチック用塗料を中心に事業拡大
- 今後、北米や南米への拡販も視野に営業活動を推進

売上
(億円)

その他



タイ 1970年設立



主要生産品 自動車部品用、プラスチック用、工業用、重防食用、建築用

- 当社海外現法の最大拠点
- 自動車部品を中心に幅広い分野に事業展開
- 現状工業用中心も、今後、重防食塗料にも注力

シンガポール 1972年設立



主要販売品 建築用、重防食用、工業用

- 東南アジア・インド地域統括及び販売・マーケティング機能
- 地場発信型ビジネスモデル構築
- 地域内製品統合
- 未染手市場開拓
- 2014年販社へ特化、マレーシアジョホール州へ生産機能を集約

マレーシア 1983年設立



主要生産品 建築用、重防食用、工業用、プラスチック用

- 2014年ジョホール州に新工場設立し、旧シンガポール生産拠点を統合
- 建築用、工業用塗料の生産比率が高い
- 今後、マレーシア他、重防食塗料にも注力

インドネシア 2001年設立

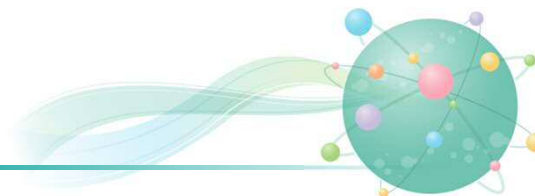


主要生産品 自動車部品用、プラスチック用、工業用

- 2014年新工場設立、2工場体制
- インドネシアの日系自動車・部品メーカーの進出加速により、塗料需要が拡大
- 重防食分野を含め現地生産品目を拡大し、事業拡大

6.事業内容

③照明機器事業 (DNライティング(株)・ニッポ電気(株))



- 高い技術力と商品の完成度が評価され、業務用照明機器の分野で独自の強みを発揮。特注品対応、施工などの細やかな顧客対応により、デパート等の店舗照明や高級ブランド店の照明では高いシェアを獲得
- 急速に伸長するLED関連市場において、高付加価値品と廉価汎用商品の開発によるバランスのとれた生産体制を構築し、競争力強化を図る

建築化照明



神奈川県本庁舎
(スマートイルミネーション横浜2015)



日本郵船歴史博物館
(施主:日本郵船歴史博物館)

- 間接光、透過光、直接光などの光の演出により、建築物の特長を損なうことなく空間を演出

店舗照明



- 様々な色温度、配光、サイズ、形状の照明器具を求める設計者やデザイナーの要望に応え、商品をより美しく演出

LED関連の競争力強化への取組み

- LED関連商品の競争力強化
 - － 高付加価値品と廉価汎用商品の二極化傾向にしっかり対応できるバランスのとれた生産体制の構築



LEDモジュール

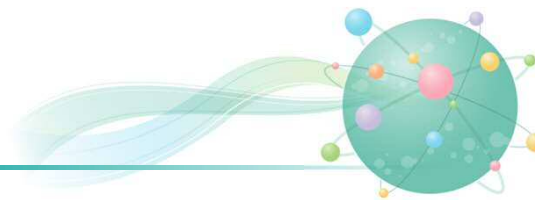
- 新市場の開拓
 - － 屋外・半屋外用LED照明器具の販売強化



屋外用Seamless type照明器具

6.事業内容

④ 蛍光色材事業 (シンロイヒ(株))



- 蛍光色材会社として、蛍光塗料・顔料における圧倒的な国内シェア
- 素材の製造・販売から、特殊な蛍光塗料を使って建物の内外装デザインまで手掛ける

防災サイン



- 災害時に非常口などの避難誘導ルートを明確に伝える蛍光塗料

ヘリポートサイン



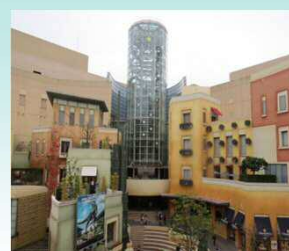
- 災害時に効果を発揮する対空表示(ヘリサイン)専用の蛍光塗料

捺染、インキ用水性蛍光顔料



- 新たな分野として用途開発を進めている蛍光顔料

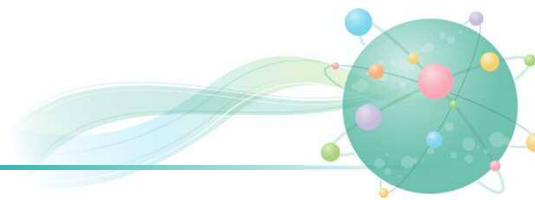
テーマパークコーティング



- 耐候性、耐水性に強い水性アクリル樹脂を使用したデコラティブペイント

7.製品紹介

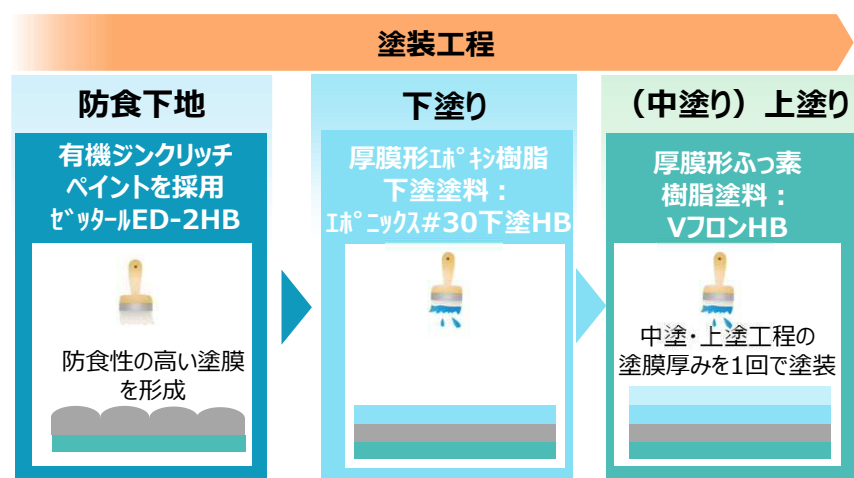
VフロンHBシリーズ/DNT水性重防食システム



- 超耐久性塗装システム「VフロンHBシリーズ」は、塗装系の高耐久化と塗装工程の短縮を実現
- オール水性化を国内で初めて実現した「DNT水性重防食システム」を提供。東京五輪に向けて普及を促進

超耐久性塗装システム：VフロンHBシリーズ

東京スカイツリー®にも採用の重防食システム



優れた耐候性

従来5工程の塗装仕様を3工程に

塗装工程の短縮

VOC排出量を約25%削減

環境負荷の低減

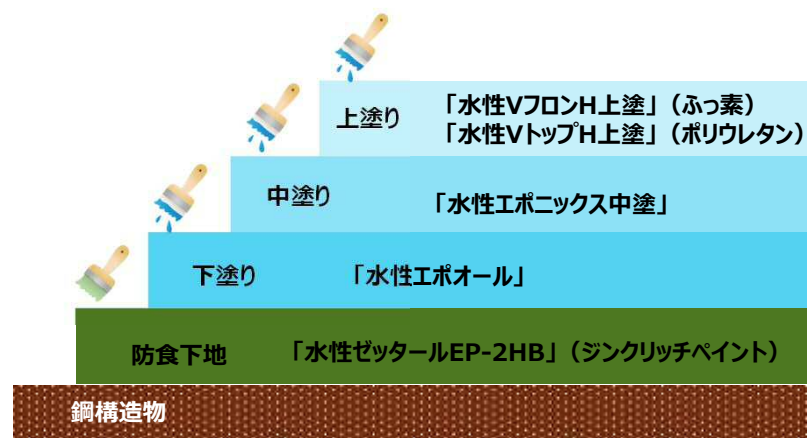
塗替サイクル10年→25年

塗替周期の延長

DNT水性重防食システム

環境配慮による溶剤形から水性化への流れ

- ジンクリッチペイントから下塗り、上塗りまでのオール水性化を国内で初めて実現
- 溶剤形と比べVOCを約90%削減



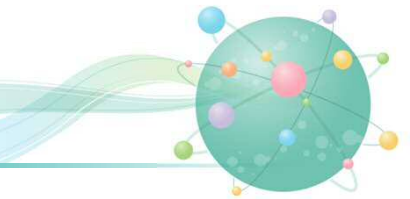
水性塗料普及への取組み

- 溶剤形重防食システムと同等の防食性、耐候性を有することをPR
- プラント、タンク、配管、橋梁、立体駐車場などに採用実績



7.製品紹介

2015年度（NETIS）“推奨技術”に選定「サビシャット」



- 塗布形素地調整軽減剤「サビシャット」は、国土交通省のデータベース（NETIS）に登録されている申請情報（技術）のうち、画期的な新技術として2015年度の「推奨技術」に選定された

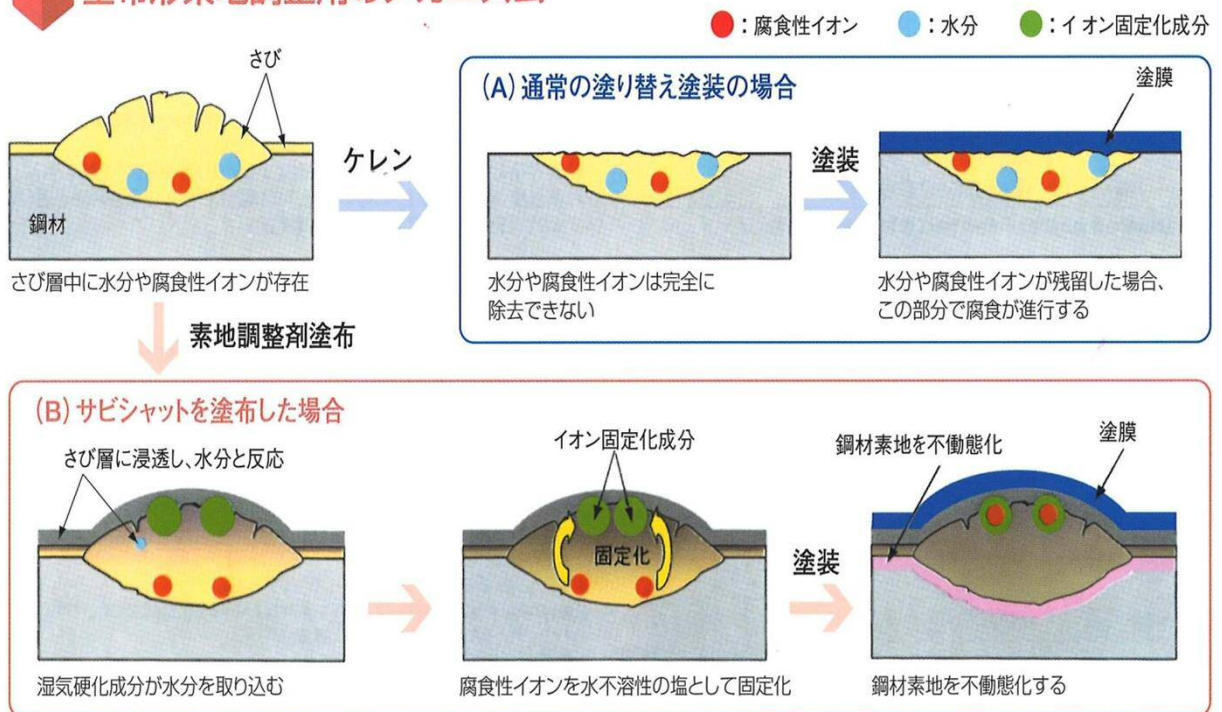


特長

- ① 粉塵や騒音の発生を低減
- ② 4種ケレン程度の素地調整で高レベルな下地づくりが可能
- ③ さび層に浸透し、脆弱層を強化
- ④ さび層中の水分を除去
- ⑤ さび層中の腐食性イオンを無害化

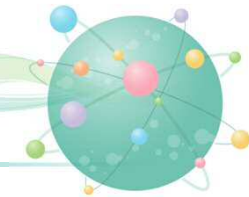
- 簡単な表面処理（さび等の除去）後の塗布のみでのさび止め効果の実現
- 従来の電動工具処理等がかかっていた時間・コストを削減できるうえ、処理で生じる粉塵や騒音を抑制、火花の発生を防止
- 化学プラントのタンク等において安全な塗装作業をサポートすることが可能

塗布形素地調整剤のメカニズム



7.製品紹介

環境対応形商品 耐候性に優れた粉体塗料「パウダーフロン」



- 多くの高層ビルやホテルの外壁に採用されている「金属製カーテンウォール」には、従来の溶剤形塗料から環境対応形の粉体塗料の採用が伸展
- 「パウダーフロンCW」は大型高層物件に順次採用、「パウダーフロンSELA」では更なる耐久性を実現

カーテンウォールとは

- 金属製カーテンウォールとは
 - 建築構造上取り外し可能な壁
 - 建物の自重及び建物の荷重はすべて柱、梁、床、屋根等で支え、建物の荷重を直接負担しない壁
 - 多くの高層ビルやホテル外壁に採用



カーテンウォール用塗料

- 耐候性での優位性から国内は溶剤形ふっ素樹脂焼付塗装が一般的
 - 環境規制の厳格化を背景に粉体塗装への流れが強まる

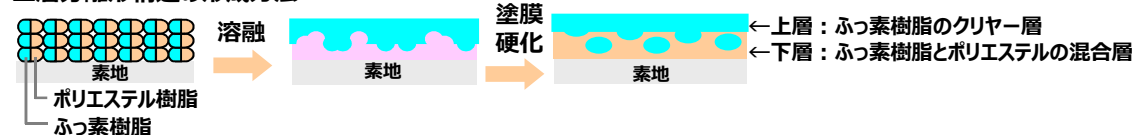
超耐候性ふっ素樹脂タイプ[®] パウダーフロンCW

- ふっ素樹脂が主要樹脂の粉体塗料
 - 溶剤形ふっ素樹脂塗料並の優れた耐候性
 - 良好な塗膜外観、密着性
 - 優れた耐薬品性
- ⇒現在主流の溶剤形ふっ素樹脂塗料からの置き換えが伸展中

二層分離形ふっ素樹脂タイプ[®] パウダーフロンSELA

- ふっ素樹脂とポリエステルとの混合粉体塗料として、ふっ素樹脂塗料を超える耐久性を実現
- ⇒二層分離形ふっ素樹脂粉体塗料【SELA = SEPARATION (分離) LAYER (層)】
- 塗膜形成時に、二層分離

二層分離形構造の形成方法



- ① 耐候性 : ふっ素樹脂塗膜 (粉体・溶剤) 以上の性能
- ② 密着性、加工性 : ポリエステル粉体塗膜と同等以上
- ③ 回収再利用可能 : 回収再利用時、ふっ素/ポリエステルの比率変化なし

★DNT独自の技術として国内特許取得済 (5件)
特許第5372621、5419828、5419941、5612280、5921001

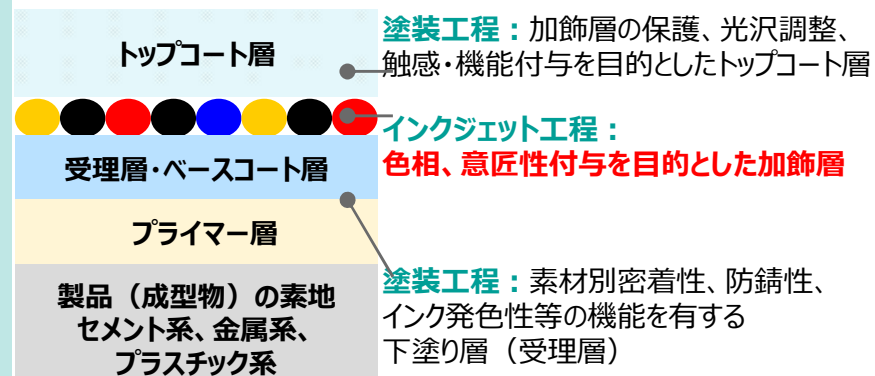
7.製品紹介

ジェットインク事業の取組み



- 塗料とインクの両方の知見を生かした「塗料とインクの相互の調整」による、最高品質のインクジェット加飾を実現
- 少量多品種生産や在庫削減等の生産メリットを訴求し、市場の拡大を図る

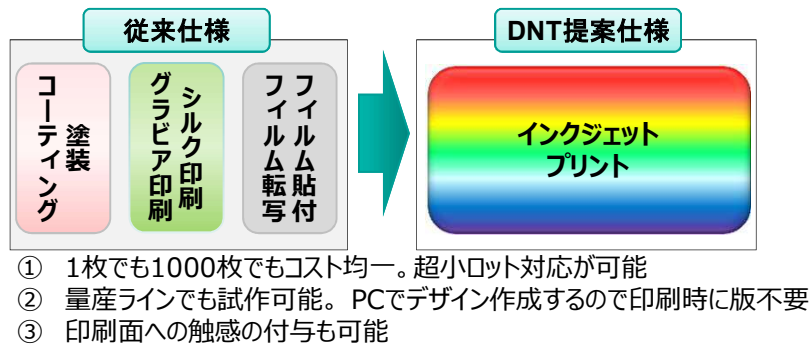
ダイレクトデジタルコーティングの塗膜構成



高品質な意匠性



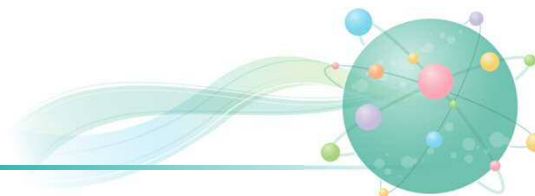
インクジェットの導入メリット



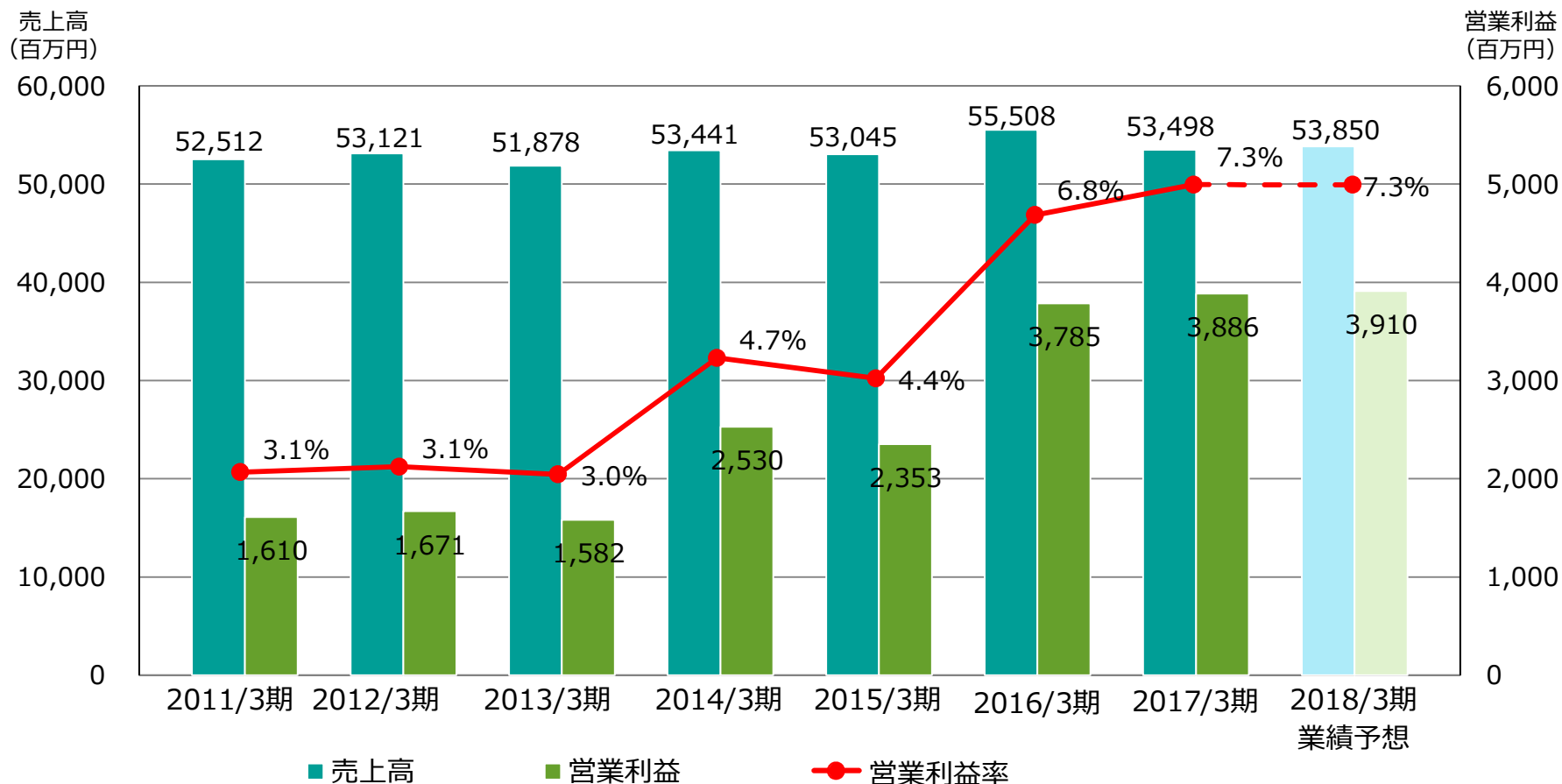
インクジェット導入例・検討状況

- ① 建材メーカー 窯業系外装材でトップコート塗料との組合せ品質を重視
- ② 内装メーカー ケイカル板、石膏ボード内装材で、ベース・インク・トップコートのトータル開発で組合せ品質を確保
- ③ 住宅メーカー 住宅設備フローア材、浴室材
- ④ 家電メーカー 少量多品種対応で、小規模案件への積極展開
- ⑤ パッケージメーカー 少量多品種対応で、機動的な変動生産ラインへの移行

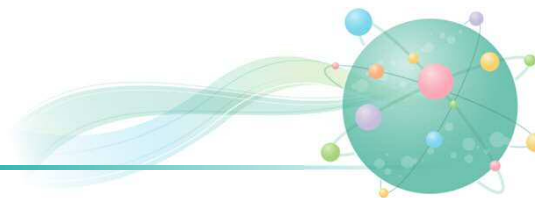
8.国内塗料事業 売上高・営業利益推移



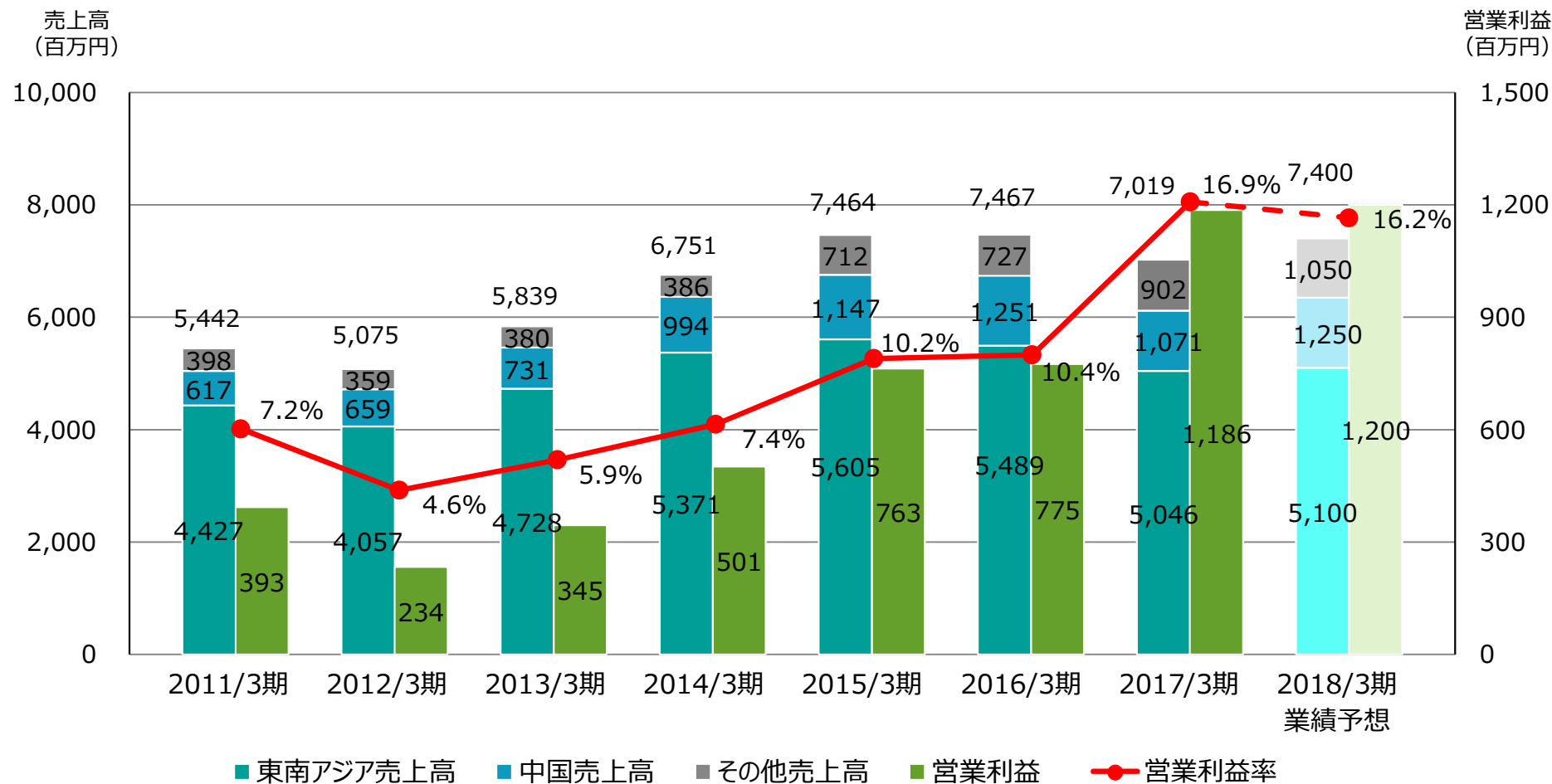
- 市場縮小のなか、インフラ更新需要を着実に取り込み、グループ構造改革や体質改善を進め収益基盤を強化



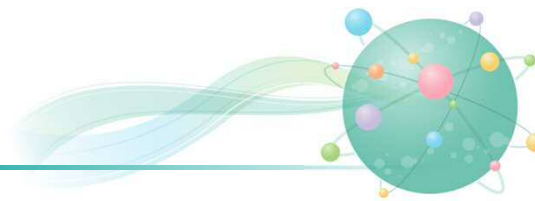
9.海外塗料事業 地域別売上高・営業利益推移



- 拡大市場と位置付け、海外事業拡大プロジェクトの推進、メキシコ合併販売会社により堅調な業績



本日はありがとうございました



彩り企業、DNT。

IRに関するお問い合わせ先

大日本塗料株式会社 管理本部 総務部

.....
電話：06-6466-6661
e-mail：dnt-sou@star.dnt.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。